

新技術・新工法

登録番号	19032	
新技術名	MMジョイントDS型（EQM-J工法）	
副題	床版の補修を兼ね備えた伸縮継手工法	
従来技術名	埋設型ジョイント（舗装厚内型）	
活用区分	—	
新技術等の区分	工法	
新技術等の分野	品質・出来形、安全性、県産資材活用	
NETIS番号	QS-180019-VE 活用促進技術(R7)	
問い合わせ先	山王株式会社 096-214-6850	

概要	①何について何をする技術なのか？ ・橋梁用伸縮継手装置において、脆弱化した床版クラック部の補修を兼ね備えた、埋設ジョイントである。 ②従来はどのような技術で対応していたか？ ・埋設ジョイント（舗装厚内型） ③公共工事のどこに適用できるか？ ・設計伸縮量が40mm以下の橋梁で、鋼橋・PC橋・RC橋等に適用が可能である ④技術のアピールポイント ・従来の埋設ジョイント（舗装厚内型）に比べ、床版に発生したマイクロクラックの補修を浸透性KSプライマーで行い、伸縮性がある特殊合材に化学繊維を配合し舗設することにより、埋設ジョイントの耐久性の向上につながる。
特徴	①既設ジョイント撤去時に床版に微細なマイクロクラックが発生するため、浸透性KSプライマーを塗布し床版を補修する。 ②浸透性KSプライマーで補修することにより、床版の延命につながる。 ③床版に不陸がある場合、KSボンド（打継用）を使用し、リフレモルセットSF（超速硬繊維補強モルタル）を打設することで、打継コンクリートと既設床版の一体化を図る。 ④リフレモルセットSFにて既設床版と一体化することで、床版と同等の弾性を有するため、「割れ」、「はくり」等を抑制する。 ⑤特殊合材に化学繊維を配合することで、耐流動性が向上した。 ⑥二次止水機能バックアップ材にしたことで、漏水を防止する構造とした。
適用可能な箇所	①自然条件 ・施工時の外気温は5℃以上 ・施工面が乾燥していること ②現場条件 ・作業ヤードが必要。20m×3m=60㎡ ・取替工の場合、1車線毎の交通規制が必要
施工単位等	新技術 644,040円／7.2m
	従来技術 644,040円／7.2m